

全国大学高専教職員組合（全大教）は、1989年に結成されました。全国の各国立大学・公立大学・大学共同利用機関・国立高専の教職員組合の連合体で、現在は110の組合が参加しています。各教職員組合には、すべての職種の人々が加入しています。また、**特定の政党支持はせず、中立の立場で活動**しています。

全国大学高専教職員組合

連絡先など詳細については、HPをご覧ください。

<https://zendaikyo.or.jp/>



組合は入らなくても関係ない？

国立大学等の教職員の労働条件は、労働者と使用者の交渉（労使交渉）によって決定されます。仕事や職場の問題は個人では解決できなくても、教職員一人ひとりが力を合わせれば解決出来ることが数多くあります。その活動の拠点となるのが組合です。

非常勤教職員のみなさんも入れます

私たちは大学・高専の未来について考えています

- ▶ 運営費交付金の削減を中止し、基盤的経費を増額すること。
- ▶ 国公立大学、高専、大学共同利用機関の教育と学術研究の機能を充実させること。
- ▶ 国公立大学の学費を引き下げること。また、高等教育無償化、奨学金制度の拡充を行うこと。
- ▶ 人件費削減策を改めるとともに、若手教員の安定的なポストを確保すること。
- ▶ 教員の教育研究環境の改善をはかること。任期制教員の任期なしへの移行をすすめること。
- ▶ 国家公務員を下回る水準にある職員の賃金を引き上げること。
- ▶ 非常勤職員の無期転換をすすめること。また待遇を改善すること。

組合加入申込書

年 月 日

お名前	職場
連絡先 (TEL)	e-mail

お問い合わせ 組合名

職場を

いっしょに作りましょう

さりげなく
お互いを見守り、
声をかけ合う

全国大学高専教職員組合
Faculty and Staff Union of Japanese Universities

組合は 労働条件の 守り手です



仕事や職場のことで悩みや問題を感じたとき、協力して、解決へ向けた話し合いを法人と対等に出来るのが労働組合です。今ではすっかり「当然」になった働く条件も実は組合の取り組みの結果、実現したものが数多くあります。

何か困っていないか、何を感じているのか、孤立していないか、さりげなくお互いを見守り、声をかけ合う職場を、いっしょにつくりましょう！

全大教は、それぞれの大学が自主的・自律的に、より良い教育・研究を行うことができるよう、政府、政党、国会議員等に要請や会見を行っています。

全大教に加盟する組合は、法人との団体交渉によってさまざまな労働条件の改善を図っています。「働きやすい職場づくり」のために現場の声を届けています！

※各大学の労使交渉結果ですので全国一律ではありません。詳しくは各組合へお問い合わせ下さい。



国に要望実現を求めます

全大教は、政府の押し付けではなく、改革は大学自治にもとづくべきであると考え、よりよい大学・高等教育の実現のために政府、政党、国会議員等に要請、会見を行っています。



▲中教審での意見発表



▲財務省会見



▲文部科学省会見



▲日本学術会議との懇談



▲厚生労働省要請

職場の

「おかしい!」「なぜ?」「どうしよう?」を解決します

賃金・手当を改善させます

教職員の入試手当の新設。地域手当の支給・増額。職員の昇格・昇任基準の改善。附属学校教員の公立学校教員との給与格差を改善。技術職員などへの業務手当の新設。看護職員の夜間看護手当などの増額。

非常勤職員を守ります

フルタイム職員の正規職員化。一律雇い止めの廃止。夏季休暇・忌引き休暇・病欠有給休暇の実現。有期雇用看護師の正職員化。

休暇制度を拡充させます

教員の研究専念休暇制度(サバティカル)の実現。産前休暇6週間を8週間に。夏季特別休暇の新設。

ウェルカムメッセージ

病院で看護師として働きながら、組合活動に参加しています。現場で働く中で様々な不満や、こんな職場だったら働きやすいのに、と思うことが多々あります。個人ではただのつぶやきで終わってしまいますが、組合は実際に病院に声を届けることができます。「医科系大学教職員懇談会」では全国で活動する組合員と情報を共有し、職場以外にも全国に自分の味方がいるのだと実感し、心強く感じています。組合は数が命です。皆様のご加入をお待ちしています。



病院協議会幹事 早瀬 樹希
(名古屋大学)

昔、様々な英語が日本語化されるなかで、「共通の目的に向かって団結する」意味の「ユニオン」に「組合」という言葉が当てられました。この言葉から何をイメージされるでしょうか。「肩を組みあって力を合わせる」、まるでラグビーのスクラムのようです。弱いものはバラバラではいけない、みんなを守ることこそ自分も守れるのだというのは、「誰一人取り残されるものは生み出さない」社会を目指すSDGsの(持続可能な社会目的)の労働版のようです。組合というのは、実は時代が求める最先端の運動体なのです。皆さんもぜひ肩を組合ませんか。



中央執行委員長 鳥畑 与一
(静岡大学)

大学・高専では女性教職員の増加にともない、育休代替者の確保やセクハラへの対応などの問題が、あらためて深刻化しているようです。また、大学附属病院での看護師の労働強化や、図書館や各種研究教育センター・産学連携センターなど共同利用施設への、任期付き人員配置の増加に性差別が重なるなど、いわゆる「学部」の枠組みとは異なる組織形態で発生する女性の問題も、増加しています。多様な問題の情報を収集し対策を練るには、全国の様々な働き方の女性教職員の方の、お声とお力が必要です。女性部の活動に、ぜひご参加ください。



女性部長 海妻 径子
(岩手大学)

労働者の労働環境は労使の力関係の上に成り立っています。我々はその関係を、少しでも労働者に有利なものにしたいと考えています。そのためには大きな声をあげねばなりません。だからあなたの力が欲しいのです。

現在の労働者はその権利と健康を守る制度の中で働いています。我々は使用者に、そのような制度をきちんと守ってもらいたいと考えています。そのためには大きな声をあげねばなりません。だからあなたの力が欲しいのです。

あなたの加入が労使の「労」を強くし、環境の改善につながります。力を貸して下さい。



高専協議会議長 岡本 勝規
(富山商船高専)